

坂本 雄三 (ハウスオブザイヤー審査委員長、東京大学名誉教授)

本表彰も15回目になりました。2022年度の結果を図1～3にまとめました。また、2012年度からの応募や表彰の状況を図4と5に示します。2016年度にZEHの補助金が拡大されたため応募数が増大したこと、及び、2017年度以降に特別優秀賞の比率が増加していることが分かります(図4参照)。これは、応募住宅の省エネ性能が毎年向上していることであり、応募者の向上心を認めることができます。地域的なシェアで言えば、2016年以降、中部地方(東海と甲信)が高くなり、東京が減少しています(図5参照)。2022年度では関東地方がトップですが、全国から偏りなく応募があることも分かります(図5参照)。

さて、2022年度に関するコメントですが、コロナ禍の影響によって空気清浄に対する工夫がかなり見られるようになりました。また、四国の企業(興陽商事)が初めて大賞を受賞し、前述した地域的な偏りが無いことを裏付けることになりました。坂本賞の「ホームズ」も人口の少ない鳥取で健闘している企業であり、本表彰の象徴的な存在と言えるでしょう。最後に、今回受賞した企業の皆様に敬意と祝意を表します。

回数	年度	応募シリーズ数	優秀賞シリーズ数	特別優秀賞シリーズ数	House of the Year in energy 大賞					
					大賞受賞企業名	U _a [W/m ² K]	BEI [-]	年間の販売シリーズ数	年間の企業総販売数	
15	2022	194	99	86	3	興陽商事	0.31	0.28	3	51
						鈴木環境建設	0.21	0.24	5	5
						高砂建設	0.26	0.40	38	73
14	2021	212	103	96	3	泉北ホーム	0.36	0.38	55	429
						住まいのウチイケ	0.15	0.29	16	36
						松下孝建設	0.29	0.28	30	30
13	2020	234	117	95	3	エルクホームズ	0.39	0.39	164	213
						健康住宅	0.24	0.33	40	90
						SANKO	0.30	0.31	9	9
12	2019	264	157	82	4	リベスト	0.25	0.43	69	121
						コージホーム	0.24	0.35	24	24
						アイディール	0.25	0.29	5	7
						Isdesign建築設計	0.19	0.24	8	9
11	2018	227	144	68	3	泉北ホーム	0.38	0.42	86	315
						住まいのウチイケ	0.23	0.50	30	32
						鈴木環境建設	0.23	0.40	8	8
10	2017	215	137	63	4	ヤマト住建	0.27	0.23	23	426
						セイダイ	0.28	0.40	56	58
						鳥野工務店	0.20	0.37	7	7
						Isdesign建築設計	0.23	0.26	7	7

回数	年度	応募シリーズ数	優秀賞シリーズ数	特別優秀賞シリーズ数	House of the Year in energy 大賞			
					大賞受賞企業名	U _a [W/m ² K]	BEI [-]	
9	2016	214	138	36	3	エルクホームズ	0.51	
						健康住宅	0.28	
						北信商建	0.27	
8	2015	128	87	29	2	一乗工務店	0.30	
						アイ・ホーム	0.24	
7	2014	102	68	24	2	アエラホーム	0.38	
						ヤマト住建	0.29	
6	2013	57	30	18	1	松下孝建設	0.24	
						一乗工務店	0.38	
2011 東日本大震災のため中止								
4	2010	53	23	23	2	新昭和	0.48	
						松美造園建設工業	0.35	
3	2009	43	27	9	2	フィアスホーム	0.49	
						日野建ホーム	0.46	
2	2008	28	12	8	2	パナホーム	0.74	
						サンフホーム	0.29	
1	2007	19	8	4	2	一乗工務店	0.38	
						スウェーデンハウス	0.46	

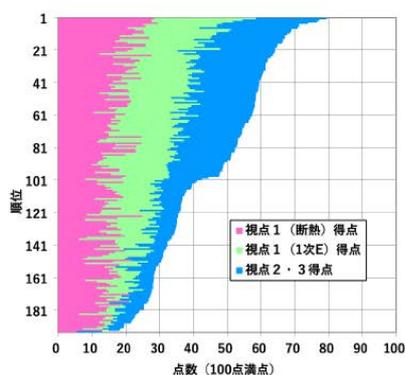


図1 順位と総合得点 (2022年度)

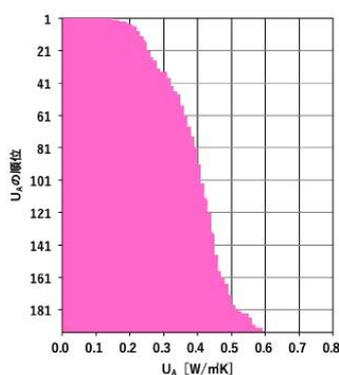


図2 U_aの昇順分布(2022年度)

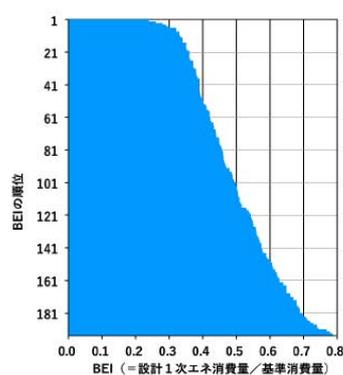


図3 BEIの昇順分布(2022年)

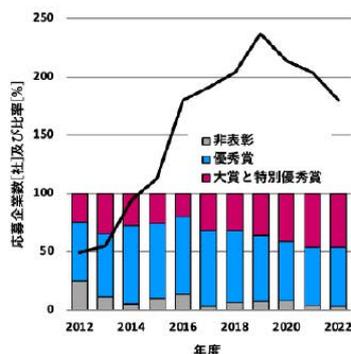


図4 応募企業数と表彰内訳の推移(2012～2022年度)

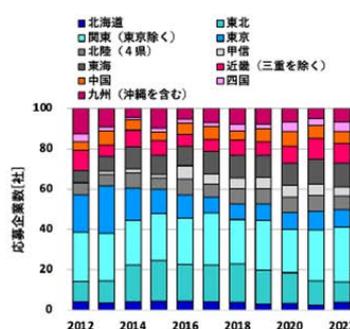


図5 応募企業の地域分布の推移(2012～2022年度)

秋元 孝之（芝浦工業大学 教授）

受賞者の皆様、誠におめでとう御座います。

対面による表彰式イベントではなく紙面でのご挨拶となりますがご容赦ください。

新型コロナウイルス感染症はまだ完全に終息しておらず引き続きの対策が必要ですが、我々は徐々に日常生活を取り戻しつつあります。地球環境問題を解決するためには、今後も継続して、省エネルギーやCO2排出量の削減に貢献することができる性能の高い住宅を増やしていくことが重要です。

今回のハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーにも、大変多くのまたとても優れた「外皮と設備をセットで捉えた、トータルとして省エネルギーな住宅」の応募があり、その普及促進状況を実感することができました。年々、皆様の取り組みと応募資料の充実度が増しており、優劣をつけることが大変難しくなってきたと感じています。

今回の秋元賞は「メープルホーム」としました。シリーズ棟数は限定的ですが、石川県の地元において精力的に質の高い住宅供給を展開されていることを評価しました。低標高の小起伏山地と丘陵地とで形成される地域における風況特性を考慮した住宅設計をしています。また、実データに基づいた情報発信を積極的に行なって、一般の住まい手に省エネで快適な暮らし方について伝えています。次回も皆様からの先進的な取組の応募を期待しています。

寺尾 信子 (株式会社 寺尾三上建築事務所 代表取締役)

受賞者の皆様、おめでとうございます。桜の季節の表彰式が、本誌への記事掲載に替り3年となりました。対面行事の素晴しさとは別に、記事の形で見易く公開して頂けることにも意義を感じます。例えばUA[W/m²K]の平均値は「2020年度：0.42」→「2021：0.41」→「2022 (0.15 から 0.60 まで)：0.40」です。断熱性能の高度化定着への本賞の貢献と関係者のご尽力に深く敬意を表します。2050年脱炭素社会に向けて、建物運用時の脱炭素化を含むWLC (ホールライフカーボン) が注目される時代になりました。皆様が獲得された高性能の住宅づくりに、生産から廃棄に至るまでのCO2排出量削減への視点を各社ごとに加えることを期待します。今回の寺尾賞は「鈴木環境建設 未来基準の家Ⅲ」とさせて頂きました。建物高性能化の他に未来に向けての基準を模索されている研究姿勢、また例えば換気システムでは第一種換気の他に「パッシブ換気」の選択肢も加えて住まい手ニーズに対応されている点などを評価させて頂きました。高度な躯体性能を基本にしておられる本賞応募者の皆様におかれましては、各社ごとに新たなコンセプトの未来基準を追加しながらの応募を、次回も期待しております。

2023年度またお会いしましょう！！